

2. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度

(1) まちづくりへの満足度結果一覧

まちづくり（取り組み）における 43 項目（施策）の満足度平均得点をランキング化しました。

表 2-1 43 項目（施策）の満足度ランキング

平均得点56.5点						
順位	前年度 順位	分野	項目	満足度	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(2位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	67.8	➡	
2位	(4位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	医療	65.3	➡	
3位	(8位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	62.6	➡	
4位	(12位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	3R（資源の有効利用）	61.9	➡	
5位	(11位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	61.7	➡	
6位	(17位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	60.6	⬆	△
7位	(13位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防災	60.2	➡	
8位	(1位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	60.1	⬆	
9位	(23位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	58.6	⬆	△
10位	(20位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	子育て	58.5	⬆	△
11位	-	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	58.4	-	
12位	(40位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	58.3	⬆	△
13位	(22位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	57.8	➡	
14位	(36位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流	57.5	⬆	△
14位	(6位)	Ⅵ. 横断的取組	健康管理	57.5	⬆	
16位	(24位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	57.4	➡	
16位	(7位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	住環境	57.4	⬆	▼
18位	(29位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	57.3	⬆	△
19位	-	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	57.0	-	
20位	(5位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	56.9	⬆	▼
21位	(9位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	56.7	⬆	▼
22位	(26位)	Ⅵ. 横断的取組	風評の払しょく	56.6	➡	
23位	(34位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	56.4	⬆	△
24位	(42位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	地域産業	56.1	⬆	△
25位	(18位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	55.7	⬆	
25位	-	Ⅶ. 基盤的取組	セーフコミュニティ	55.7	-	
25位	(14位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	55.7	⬆	▼
28位	(28位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	55.2	➡	
29位	(37位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	55.1	➡	
30位	-	Ⅰ. 産業・仕事の未来	起業支援	55.0	-	
31位	(25位)	Ⅶ. 基盤的取組	連携中枢都市圏構想	54.9	⬆	
32位	(30位)	Ⅶ. 基盤的取組	行政経営	54.8	⬆	
33位	(39位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	54.3	➡	
33位	(15位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	54.3	⬆	▼
35位	(27位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	53.8	⬆	
36位	(35位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	53.5	⬆	
36位	(19位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	53.5	⬆	▼
38位	(43位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	雇用・就労	52.2	➡	
39位	(38位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	観光	52.1	⬆	
40位	(41位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	51.0	➡	
41位	-	Ⅵ. 横断的取組	除去土壌等の搬出	48.8	-	
42位	(32位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	シティプロモーション	48.4	⬆	▼
43位	(33位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	農林業	46.8	⬆	▼

平均より高い

平均より低い

【よい】の回答者に 100 点、【まあまあ】に 80 点、【普通】に 60 点、【やや不満】に 40 点、【不満】に 20 点を与え、各項目の平均得点を算出した結果を掲載しました。(表 2-1 参照)

平均得点が高いほど、「満足」との評価が高い施策・事業です。

平均得点の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※ 1 : 平均得点の算出式

(【よい】×100+【まあまあ】×80+【普通】×60
+【やや不満】×40+【不満】×20)÷無回答者を除いた n 数

※ 2 : 平均得点の算出例

例えば、「よい」110 人、「まあまあ」213 人、「普通」169 人、
「あまり」95 人、「まったく」46 人ですと、

$$\frac{110 \text{ 人} \times 100 \text{ 点} + 213 \text{ 人} \times 80 \text{ 点} + 169 \text{ 人} \times 60 \text{ 点} + 95 \text{ 人} \times 40 \text{ 点} + 46 \text{ 人} \times 20 \text{ 点}}{633 \text{ 人}}$$

≒67.8

※平均得点=67.8 点となります。

— 満足度の上位3つは、「音楽のまちづくり」「医療」「自然環境」です —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する満足度については、「音楽のまちづくり」「医療」「自然環境」が上位となっています。

「10年間の満足度上位3項目」において、「医療」は2017年以外、毎年度上位3項目に含まれ、また、「音楽のまちづくり」は「音楽都市こおりやま」を含めると2013年以降は毎年上位3項目に含まれており、継続して満足度の上位にある施策です。

「音楽のまちづくり」については、「音楽都市宣言」から10年経過し、市民の認知度が高いこと、また、「医療」については、人口に対する病床数や医師等が全国平均を上回っていることなどが、満足度につながっていると考えられます。

前年度調査に比べて大きく順位を上げたのは、「スポーツ・文化・芸術」「防犯・交通安全・消費者対策」「子育て」「産業創出・企業誘致」「都市間交流・国際交流」です。

これら項目に関連する本市の主な取り組みは、次のとおりです。

「スポーツ」では充実したスポーツ施設環境や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした市民参加型のイベントの実施、プロスポーツとの連携による事業展開を図り、「防犯・交通安全」では2018年2月にセーフコミュニティ認証を取得し、地域での安全・安心への取り組みを推進しています。

「子育て」については、保育料無料化・軽減事業（2014～）、子育て世代包括支援センター事業（ニコニコサポート）や子育て支援アプリケーション（ニコサポアプリ）の配信事業など市独自施策を展開し、2018年4月にはこどもを第一に考えるまちづくりを推進するため「郡山市子ども条例」を制定しました。

「産業創出・企業誘致」については、再生可能エネルギーや医療機器関連産業に関連した企業誘致や地元企業への支援など、研究開発機関や産業支援機関をはじめ、高等教育機関との様々な連携事業をすすめ成果をあげています。

「都市間交流・国際交流」では、国内の姉妹都市や連携都市との交流、また、国外では姉妹都市ブルメン市があるオランダ王国や特産物の鯉を通じてハンガリーとの交流、更には再生可能エネルギーや医療機器関連産業に関連し、エッセン市と連携しEU国際都市間協力プロジェクトに参加するなど国内外の都市との交流を深めました。

また、7分野の満足度を比較すると、最も満足度が高かった分野は、「誰もが地域で輝く未来」の58.0点、次いで「暮らしやすいまちの未来」の57.2点、「学び育む子どもたちの未来」の56.7点となっています。

表 2－2 7分野別の満足度ランキング

順 位	分 野	点 数
1位	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	58.0
2位	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	57.2
3位	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	56.7
4位	Ⅱ. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	56.5
5位	Ⅶ. 基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏)	55.1
6位	Ⅵ. 横断的取組 (復興・創生の更なる推進)	54.3
7位	Ⅰ. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	54.1

過去 10 年間の満足度上位 3 つは下表のとおりです。

表 2－3 10年間の満足度上位 3 項目

順位 年度	1 位	2 位	3 位
H30	音楽のまちづくり	医療	自然環境
H29	広聴広報	音楽都市こおりやま	除染
H28	広聴広報	音楽都市こおりやま	医療
H27	音楽都市こおりやま	生涯学習	医療
H26	音楽都市こおりやま	医療	生涯学習
H25	生涯学習	医療	音楽都市こおりやま
H24	医療体制	生活衛生体制	保健予防体制
H23	医療体制	生活衛生体制	ごみ対策
H22	生活環境	医療体制	ごみ対策
H21	生活環境	医療体制	ごみ対策

(2) これからの取り組み重要度結果一覧

まちづくり（取り組み）における 43 項目（施策）の重要度の平均割合（回答率）をランキング化しました。

表 2-4 43 項目（施策）の重要度ランキング

平均割合 11.1%

順位	前年度 順位	分野	項目	重要度	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(6位)	I. 産業・仕事の未来	雇用・就労	34.8	➡	
2位	(2位)	III. 学び育む子どもたちの未来	子育て	32.4	➡	
3位	(1位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	28.9	➡	
4位	(3位)	III. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	22.0	➡	
5位	(5位)	I. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	20.0	➡	
6位	(8位)	V. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	19.2	➡	
7位	(4位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	医療	18.0	➡	
8位	-	VI. 横断的取組	除去土壌等の搬出	17.5	-	
9位	(34位)	I. 産業・仕事の未来	地域産業	17.2	⬆	△
9位	(7位)	V. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	17.2	➡	
11位	(23位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防災	16.6	⬆	△
12位	(11位)	II. 交流・観光の未来	観光	14.5	➡	
13位	(9位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	14.4	➡	
14位	(41位)	I. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	13.7	⬆	△
15位	(17位)	III. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	13.1	➡	
16位	(29位)	II. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	11.5	⬆	△
17位	(12位)	III. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	10.7	➡	
18位	(10位)	VI. 横断的取組	風評の払しょく	10.6	➡	
19位	(24位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	10.0	➡	
20位	(39位)	II. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流	9.9	⬆	△
21位	(12位)	I. 産業・仕事の未来	農林業	9.6	⬆	▼
21位	(21位)	VI. 横断的取組	健康管理	9.6	➡	
23位	(28位)	V. 暮らしやすいまちの未来	住環境	8.9	➡	
24位	(29位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	8.7	➡	
25位	-	I. 産業・仕事の未来	起業支援	8.2	-	
26位	(18位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	7.6	➡	
27位	(38位)	II. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	7.2	⬆	△
28位	(27位)	V. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	6.8	➡	
29位	(15位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	6.3	⬆	▼
30位	(35位)	II. 交流・観光の未来	シティプロモーション	6.2	➡	
31位	-	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	5.6	-	
32位	-	III. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	5.2	-	
32位	(15位)	V. 暮らしやすいまちの未来	3R（資源の有効利用）	5.2	⬆	▼
34位	(26位)	VII. 基盤的取組	行政経営	4.5	➡	
35位	(33位)	VII. 基盤的取組	連携中枢都市圏構想	4.4	➡	
36位	(22位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	4.2	⬆	▼
36位	(37位)	V. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	4.2	➡	
36位	(14位)	V. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	4.2	⬆	▼
39位	(31位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	2.7	➡	
40位	-	VII. 基盤的取組	セーフコミュニティ	2.0	-	
41位	(42位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	1.7	➡	
42位	(31位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	0.7	⬆	▼
42位	(40位)	V. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	0.7	➡	

平均より高い

↑

平均より低い

↓

— 重要度の上位3つは、「雇用・就労」「子育て」「高齢者福祉」です —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する重要度については、「雇用・就労」「子育て」「高齢者福祉」が上位となっています。

「雇用・就労」については、市民生活に直結する項目であるとともに、国の「働き方改革」や社会的構造変化に伴う労働力不足への対応など、雇用・就労を取り巻く環境変化などから重要度が高くなったと考えられます。

「10年間の重要度上位3項目」において、「子育て」は2014年から、「高齢者福祉」は2013年から毎年度上位3項目に含まれており、継続して重要度の高い施策です。

前年度調査に比べて大きく順位を上げたのは、「地域産業」「防災」「特産品ブランド化」「音楽のまちづくり」です。

「地域産業」については、「雇用・就労」重要度の高まりとともに、雇用と密接に関わる地域産業の活性化の重要性が高まっています。

「防災」は西日本豪雨や大阪北部地震等の大規模な自然災害の多発による防災意識の高まりから、また「特産品ブランド化」については、更なる郡山産品の販路拡大による風評の払しょく、また、日本遺産「一本の水路」ブランド認証の活用など、ブランディングにより地域の魅力を最大限に引き出すことが求められていると考えられます。

また、7分野の重要度を比較すると、満足度においては最も低い分野の「産業・仕事の未来」は最も重要度が高い分野で17.2%となっており、重点的に取り組むべき分野といえます。

次いで「学び育む子どもたちの未来」の16.7%、「横断的取組」の12.5%となっています。

表 2－5 7分野別の重要度ランキング

順位	分野	回答率
1位	I. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	17.2
2位	III. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	16.7
3位	VI. 横断的取組 (復興・創生の更なる推進)	12.5
4位	II. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	9.9
5位	V. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	9.7
6位	IV. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	8.6
7位	VII. 基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏)	3.6

参考までに、過去 10 年間の重要度上位 3 つは下表のとおりです。

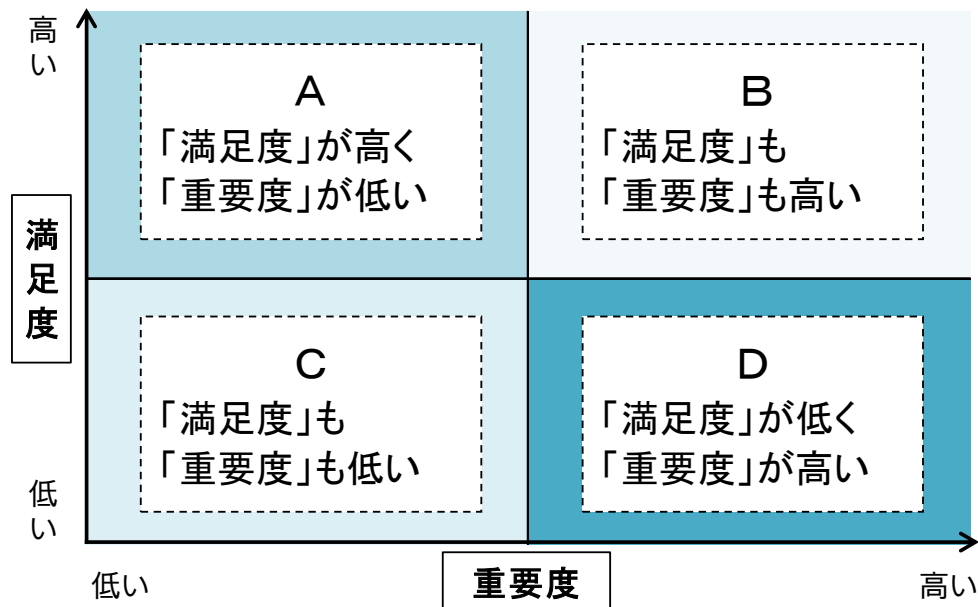
表 2－6 10年間の重要度上位3項目

順位 年度	1 位	2 位	3 位
H30	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
H29	高齢者福祉	子育て	学校教育
H28	高齢者福祉	学校教育	子育て
H27	高齢者・障がい者福祉	学校教育	子育て
H26	高齢者・障がい者福祉	子育て	学校教育
H25	除染	高齢者・障がい者福祉	学校教育
H24	医療体制	生活環境	保健予防体制
H23	生活環境	医療体制	ごみ対策
H22	医療体制	生活環境	ごみ対策
H21	医療体制	生活環境	ごみ対策

（３）施策の優先度《満足度と重要度の関係》

まちづくり（取り組み）における 43 項目（施策）の優先度を整理するため、「満足度」を縦軸、「重要度」を横軸にとり、各項目の「満足度」「重要度」の結果を散布図として示しました。満足度平均得点の算出方法につきましては、前出 24 頁を参照ください。

なお、「満足度」「重要度」の関係を表す領域線は、それぞれの平均値となります。



A：維持領域

重要度は低いが満足度が高い取り組みは、現状を維持していく項目（施策）です。

B：重要維持領域

重要度が高く満足度も高いため、引き続き重点的に維持していく項目（施策）です。

C：要検討領域

重要度も満足度も低い取り組みは、市民ニーズを再認識し、必要があれば大きく改善する必要がある項目（施策）です。

D：重要取組領域

重要度が高いが満足度が低いため、重点的に取り組みを進める必要がある項目（施策）です。

※上記のそれぞれの領域に該当した項目（施策）の満足度や重要度の高低については、全体の平均値と比較した相対的判断となっています。

図10-10 地域づくりの満足度と重要度の関係

満足度: 平均より高い
重要度: 平均より低い (A)

満足度: 平均より高い
重要度: 平均より高い (B)

満足度: 平均より低い
重要度: 平均より低い (C)

満足度: 平均より低い
重要度: 平均より高い (D)

「子育て」に関しては、特に重点的な維持が期待されています。

「雇用・就労」「高齢者福祉」に関しては、とりわけニーズが高くなっています。

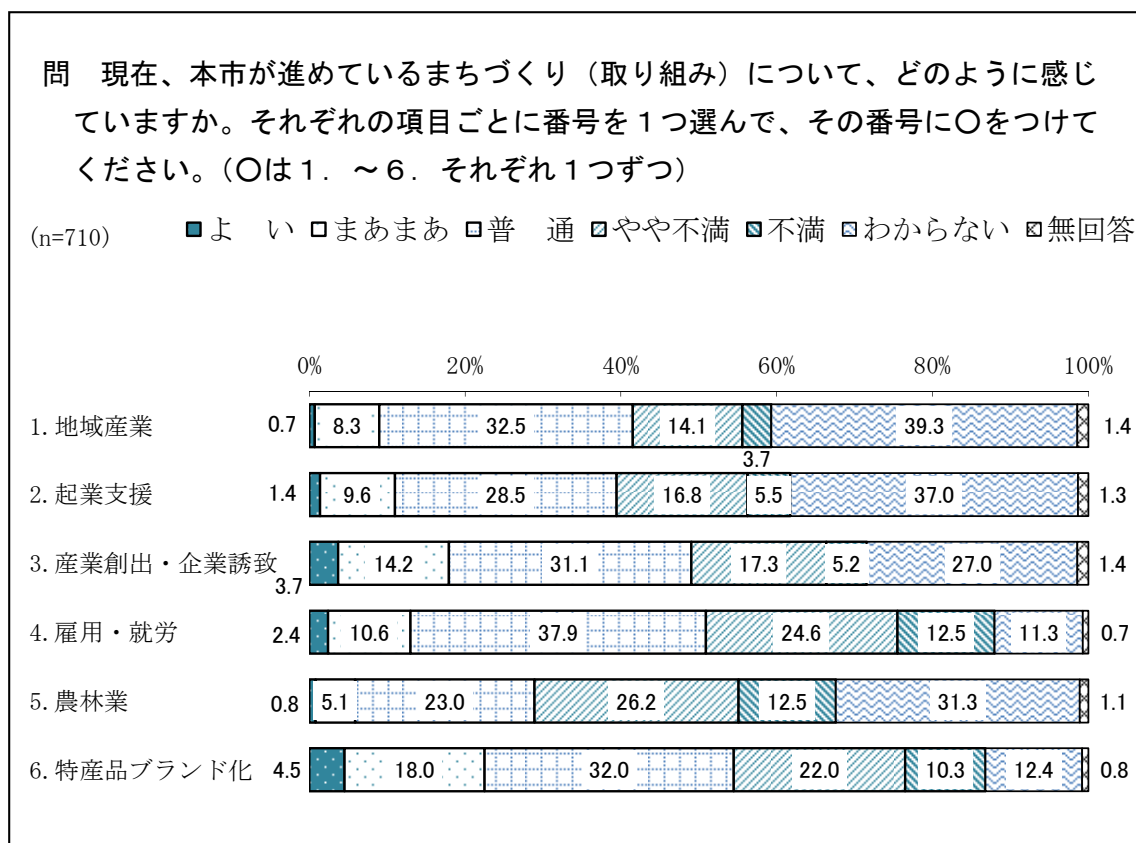
地域づくりの満足度と重要度の関係を示すグラフ。Y軸は満足度（45～70点）、X軸は重要度（0～40%）。各項目の満足度と重要度をプロットし、4つの領域（A～D）に分類している。

項目	重要度 (%)	満足度 (点)
音楽のまちづくり	15	68
医療	18	65
子育て	35	58
3R (資源の有効利用)	5	63
広聴広報	2	60
自然環境	7	62
健康づくり	10	61
スポーツ・文化・芸術	12	60
防災	17	60
防犯・交通安全・消費者対策	20	58
産業創出・企業誘致	22	57
都市間交流・国際交流	15	56
健康管理	13	55
特産品ブランド化	25	55
地域産業	28	54
風評の払しょく	18	53
地域福祉	10	52
交通・道路	15	51
観光	12	50
計画的な都市づくり	20	49
除去土壌等の搬出	18	48
農林業	10	47
高齢者福祉	30	53
雇用・就労	35	52
学校教育	22	54
乳幼児教育・家庭教育	18	53
起業支援	12	52
障がい者福祉	8	51
連携中枢都市圏構想	10	50
環境活動	5	49
ユニバーサルデザイン	2	48
セーフコミュニティ	3	47
行政経営	6	54
市民協働	4	55
生涯学習	3	56
エネルギー	4	57
男女共同参画	1	58
地域学習	6	59
住環境	7	60
歴史・文化遺産	8	61

現在の満足度が低く、今後の重要性が高い領域「D」にある施策は市民ニーズが高いと考えられます。この領域は市民生活に密接な関係のある施策が多く、とりわけ「雇用・就労」「高齢者福祉」は市民ニーズの高いポイントとなっています。

(4) 分野別属性別満足度結果

①産業・仕事の未来（商業・工業・雇用・農林業分野）への満足度



—— 産業・仕事の未来において「満足」と思う人が最も多いのは

『特産品ブランド化』 ——

【全体結果】

『産業・仕事の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「まあまあ」の合計）」の割合が最も高いのは『6. 特産品ブランド化』（22.5%）でした。以下、『3. 産業創出・企業誘致』（17.9%）と続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「やや不満」の合計）」の割合が高いのは『5. 農林業』（38.7%）、『4. 雇用・就労』（37.1%）、『6. 特産品ブランド化』（32.3%）がそれぞれ3割台となっており、『6. 特産品ブランド化』については評価が分かれる結果となっております。

市特産品の「鯉」や「あさか舞」、6次産業による郡山産ワイン誕生を目指すプロジェクトなど、風評の払しょくに向けた取り組みが評価される一方、「43項目（施策）の重要度ランキング」（表2-4）で大きく順位を上げるなど、更なる施策の推進が求められています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図2-2 参照）

平均得点をみると、『3. 産業創出・企業誘致』が58.3点で最も高く、一方で、最も低かったのは『5. 農林業』（46.8点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表2-7 参照）

図 2－2 産業・仕事の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

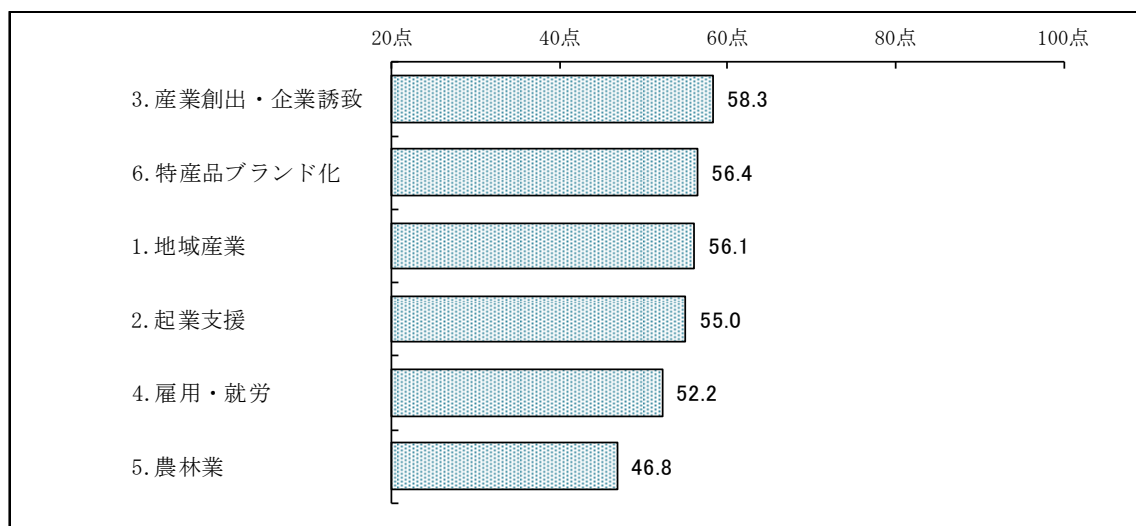


表 2－7 産業・仕事の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男 性	女 性
1位	産業創出・ 企業誘致 (56.9点)	特産品 ブランド化 (61.1点)
2位	地域産業 (55.5点)	産業創出・ 企業誘致 (59.8点)
3位	起業支援 (55.2点)	地域産業 (56.9点)

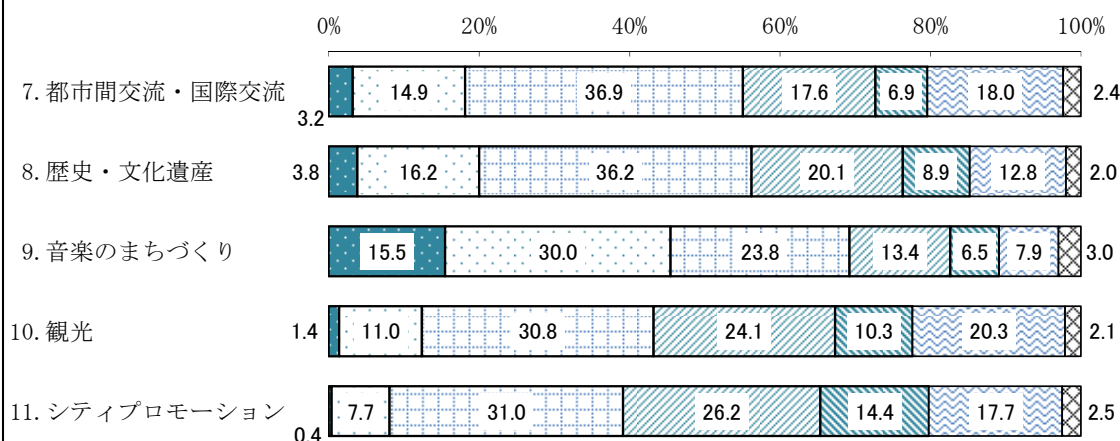
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	特産品 ブランド化 (68.9点)	特産品 ブランド化 (62.3点)	特産品 ブランド化 (57.6点)	産業創出・ 企業誘致 (60.4点)	地域産業 (56.3点)	産業創出・ 企業誘致 (56.7点)	産業創出・ 企業誘致 (61.5点)
2位	産業創出・ 企業誘致 (68.6点)	地域産業 (60.7点)	産業創出・ 企業誘致 (57.0点)	地域産業 (57.6点)	産業創出・ 企業誘致 (54.9点)	特産品 ブランド化 (54.9点)	起業支援 (60.5点)
3位	地域産業 (64.0点)	産業創出・ 企業誘致 (60.0点)	地域産業 (53.3点)	特産品 ブランド化 (56.6点)	特産品 ブランド化 (53.9点)	地域産業 (52.8点)	地域産業 (58.6点)

②交流・観光の未来（交流・文化・観光・シティプロモーション分野） への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。（○は7. ～11. それぞれ1つずつ）

(n=710)

■よい □まあまあ □普通 □やや不満 □不満 □わからない □無回答



—— 交流・観光の未来において「満足」と思う人が最も多いのは

『音楽のまちづくり』 ——

【全体結果】

『交流・観光の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「まあまあ」の合計）」の割合が最も高いのは『9. 音楽のまちづくり』（45.5%）でした。以下、『8. 歴史・文化遺産』（20.0%）と続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「やや不満」の合計）」の割合が最も高いのは『11. シティプロモーション』（40.6%）となっています。

性別、年代別において、10代をのぞいて、全ての種別で「音楽のまちづくり」が1位となっております。「音楽都市宣言」から10年経過し、学校音楽の全国大会での活躍により市民の認知度は高く、更に、様々なコンサートの開催、東京藝術大学との連携(2016～)事業など多様な取組により市民の満足の割合が高いと考えられます。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図2-3 参照）

平均得点をみると、『9. 音楽のまちづくり』が67.8点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『11. シティプロモーション』（48.4点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを下記に掲載しました。（表2-8 参照）

図 2－3 交流・観光の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

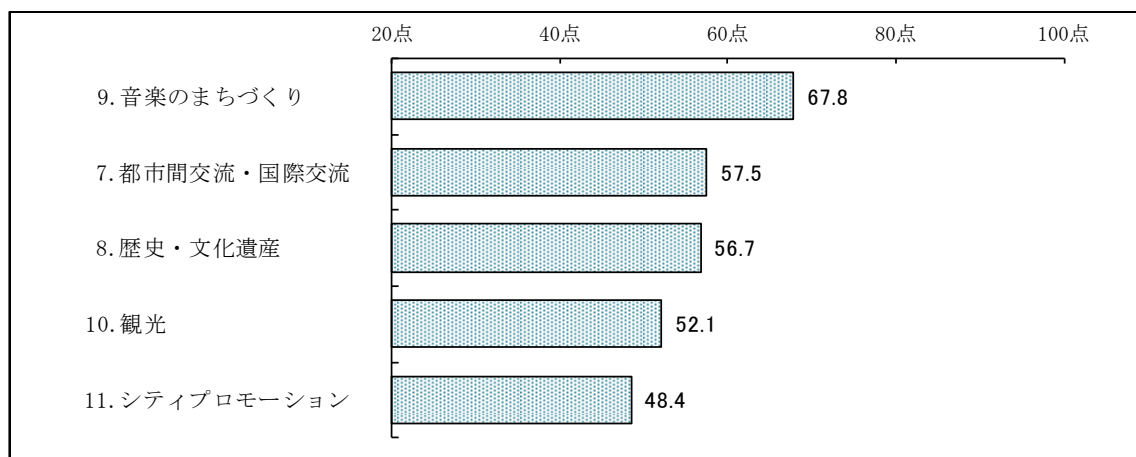


表 2－8 交流・観光の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

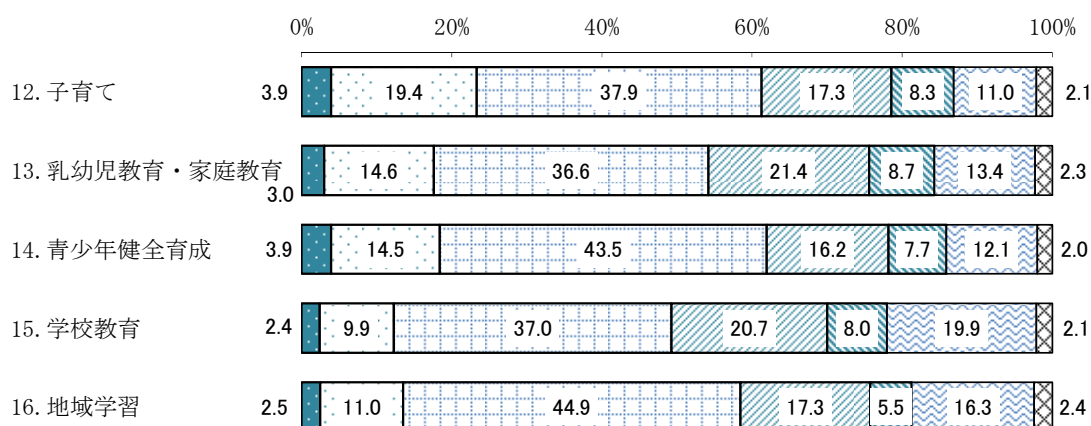
	男 性	女 性
1位	音楽の まちづくり (65.0点)	音楽の まちづくり (69.8点)
2位	都市間交流・ 国際交流 (55.0点)	都市間交流・ 国際交流 (59.5点)
3位	歴史・ 文化遺産 (53.7点)	歴史・ 文化遺産 (59.0点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	都市間交流・ 国際交流 (70.0点)	音楽の まちづくり (70.7点)	音楽の まちづくり (64.1点)	音楽の まちづくり (68.3点)	音楽の まちづくり (64.2点)	音楽の まちづくり (67.2点)	音楽の まちづくり (72.6点)
2位	歴史・ 文化遺産 (70.0点)	歴史・ 文化遺産 (60.5点)	都市間交流・ 国際交流 (54.3点)	歴史・ 文化遺産 (58.7点)	都市間交流・ 国際交流 (55.4点)	都市間交流・ 国際交流 (55.2点)	都市間交流・ 国際交流 (62.2点)
3位	音楽の まちづくり (65.5点)	都市間交流・ 国際交流 (59.4点)	歴史・ 文化遺産 (53.2点)	都市間交流・ 国際交流 (57.5点)	歴史・ 文化遺産 (54.0点)	歴史・ 文化遺産 (53.6点)	歴史・ 文化遺産 (60.4点)

③学び育む子どもたちの未来（子育て・教育・地域学習分野）への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。（○は12. ～16. それぞれ1つずつ）

(n=710) ■よい □まあまあ □普通 □やや不満 ■不満 □わからない □無回答



—— 学び育む子どもたちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『子育て』 ——

【全体結果】

『学び育む子どもたちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「まあまあ」の合計）」の割合が最も高いのは『12. 子育て』（23.3%）でした。以下、『14. 青少年健全育成』（18.4%）と続き、上位を構成しています。特に『12. 子育て』に関しては、安心して生み育てる環境において、子育てしやすい環境づくりに努めるなど、今後特に重点的な維持が期待されています。

一方で、「不満（「不満」と「やや不満」の合計）」の割合が最も高いのは『13. 乳幼児教育・家庭教育』（30.1%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図 2-4 参照）

平均得点をみると、『12. 子育て』が 58.5 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『15. 学校教育』（54.3 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを下記に掲載しました。（表 2-9 参照）

図 2-4 学び育む子どもたちの未来への満足度＜平均得点＞（全体）

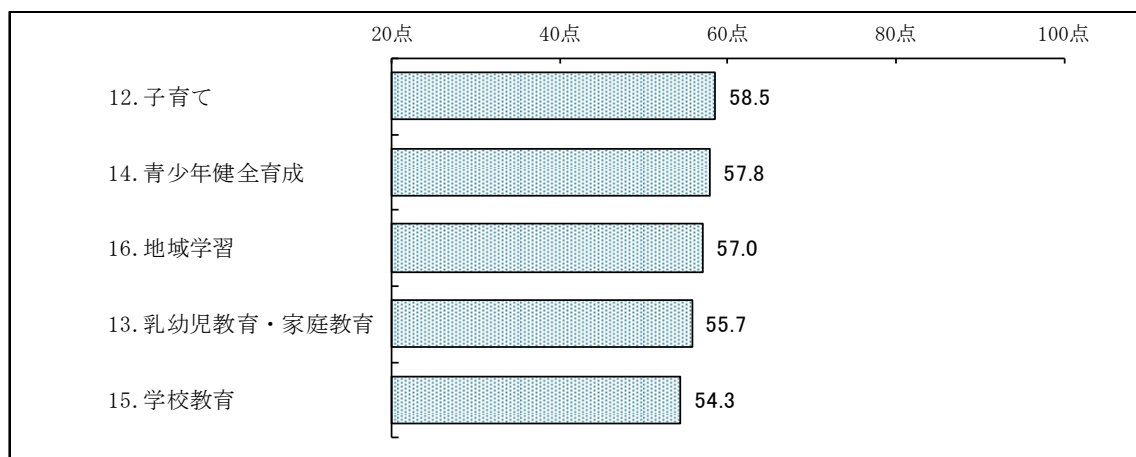


表 2-9 学び育む子どもたちの未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男 性	女 性
1位	子育て (56.9点)	青少年 健全育成 (59.9点)
2位	地域学習 (55.4点)	子育て (59.6点)
3位	青少年 健全育成 (55.4点)	地域学習 (58.2点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	子育て (74.0点)	地域学習 (61.1点)	子育て (59.0点)	子育て (61.6点)	子育て (56.0点) 青少年 健全育成 (56.0点)	青少年 健全育成 (56.9点)	青少年 健全育成 (59.8点)
2位	地域学習 (70.9点)	子育て (58.5点)	青少年 健全育成 (54.4点)	青少年 健全育成 (59.8点)		子育て (56.0点)	子育て (59.7点)
3位	青少年 健全育成 (69.1点)	青少年 健全育成 (57.8点)	学校教育 (54.3点)	地域学習 (57.5点)	地域学習 (55.2点)	地域学習 (55.9点)	乳幼児教育・ 家庭教育 (58.9点)

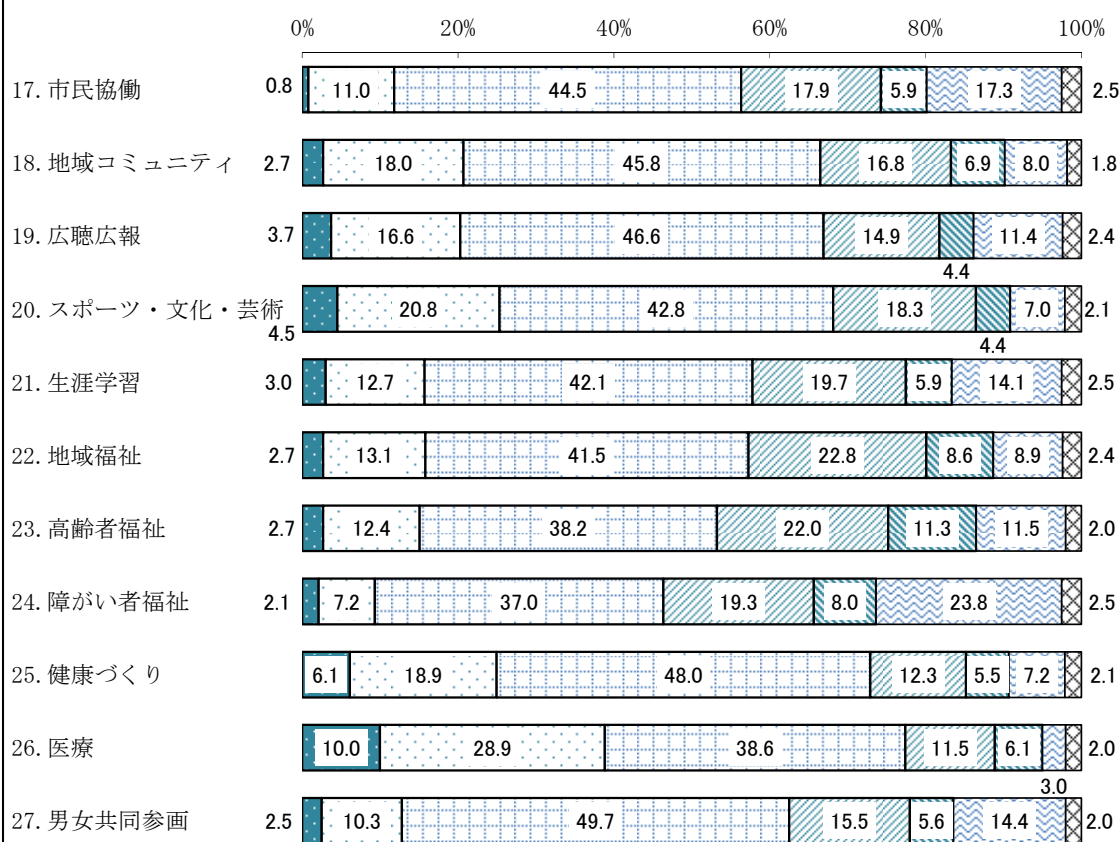
④誰もが地域で輝く未来

（市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野）への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。（○は17. ～27. それぞれ1つずつ）

(n=710)

■よい □まあまあ □普通 □やや不満 □不満 □わからない □無回答



—— 誰もが地域で輝く未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『医療』 ——

【全体結果】

『誰もが地域で輝く未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「まあまあ」の合計）」の割合が最も高いのは『26. 医療』（38.9%）でした。以下、『20. スポーツ・文化・芸術』（25.3%）と続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「やや不満」の合計）」の割合が高いのは『23. 高齢者福祉』（33.3%）、『22. 地域福祉』（31.4%）がそれぞれ3割台となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を下記に掲載しました。（図 2-5 参照）

平均得点をみると、『26. 医療』が 65.3 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『24. 障がい者福祉』（53.5 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました。（表 2-10 参照）中でも『26. 医療』に関しては、性別、年代別平均得点とも 1 位で、人口 10 万人に対する、郡山市の病床数と医師・歯科医師がそれぞれ全国平均を大きく上回っており（参考「厚生労働省統計調査 平成 28 年 10 月 1 日現在」）、必要なときに安心かつ適切な医療を受けられる体制の充実への認識が高いと思われます。

図 2-5 誰もが地域で輝く未来への満足度＜平均得点＞（全体）

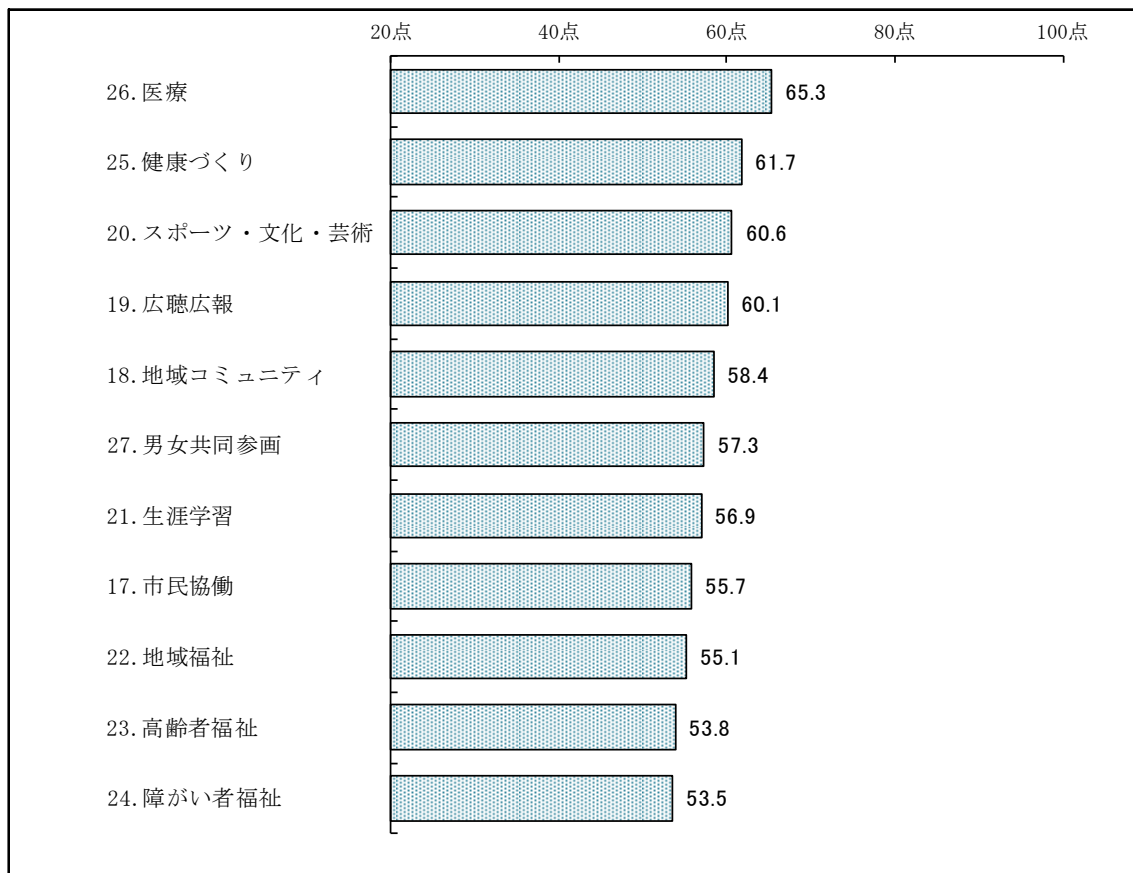


表 2－10 誰もが地域で輝く未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男 性	女 性
1位	医療 (65.0点)	医療 (65.4点)
2位	健康づくり (59.4点)	健康づくり (63.5点)
3位	スポーツ・ 文化・芸術 (58.7点)	スポーツ・ 文化・芸術 (62.1点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	医療 (78.2点)	医療 (67.3点)	医療 (62.6点)	医療 (65.6点)	医療 (62.5点)	医療 (63.5点)	医療 (69.5点)
2位	高齢者福祉 (73.3点)	スポーツ・ 文化・芸術 (67.1点)	広聴広報 (62.1点)	健康づくり (62.5点)	健康づくり (56.9点)	健康づくり (61.2点)	健康づくり (66.9点)
3位	地域福祉 (72.7点)	広聴広報 (66.8点)	スポーツ・ 文化・芸術 (58.7点)	スポーツ・ 文化・芸術 (61.1点)	男女共同参画 (55.5点)	広聴広報 (59.2点)	スポーツ・ 文化・芸術 (65.8点)

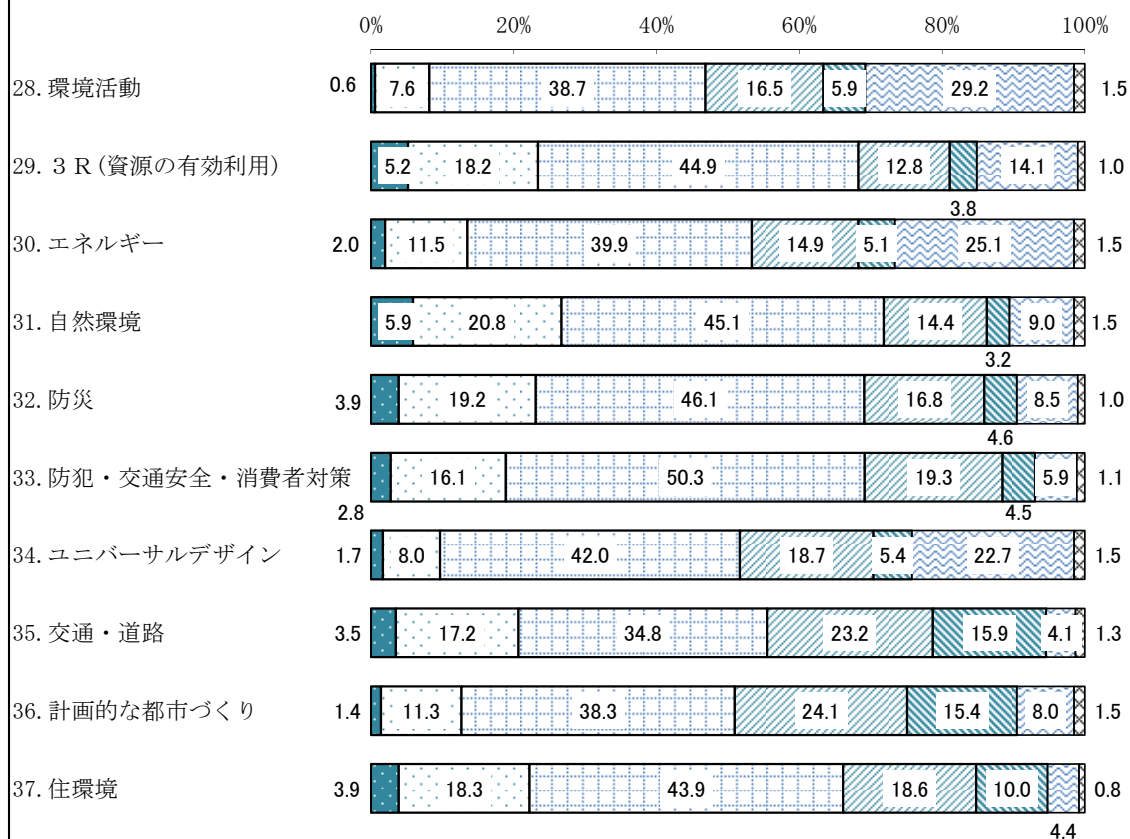
⑤暮らしやすいまちの未来

(環境・防災・市民安全・生活インフラ分野) への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。（○は28. ～37. それぞれ1つずつ）

(n=710)

■よい □まあまあ □普通 □やや不満 □不満 □わからない □無回答



—— 暮らしやすいまちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『自然環境』

——

【全体結果】

『暮らしやすいまちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「まあまあ」の合計）」の割合が最も高いのは『31. 自然環境』（26.7%）でした。以下、『29. 3 R（資源の有効利用）』（23.4%）と続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「やや不満」の合計）」の割合が高いのは『36. 計画的な都市づくり』（39.5%）、『35. 交通・道路』（39.1%）がそれぞれ3割台となっています。

また、「普通」の割合が過半数を占める項目は、『33. 防犯・交通安全・消費者対策』（50.3%）でした。

各項目の平均得点を算出した結果を下記に掲載しました。（図 2-6 参照）

平均得点をみると、『31. 自然環境』が 62.6 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『36. 計画的な都市づくり』（51.0 点）でした。

『32. 防災』『33. 防犯・交通安全・消費者対策』に関しては、重要度・満足度が平均得点より高く、今後も防災体制の整備やセーフコミュニティ活動の更なる推進が求められていると考えられます。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました。（表 2-11 参照）

図 2-6 暮らしやすいまちの未来への満足度＜平均得点＞（全体）

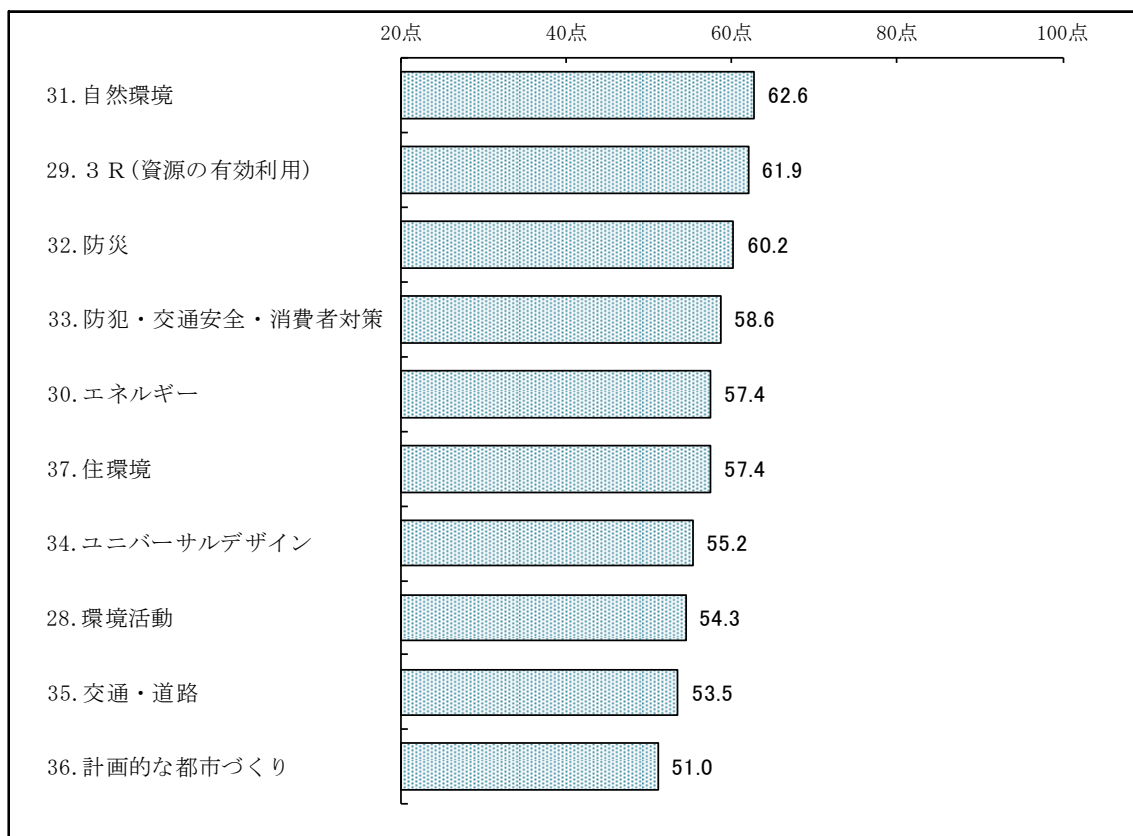


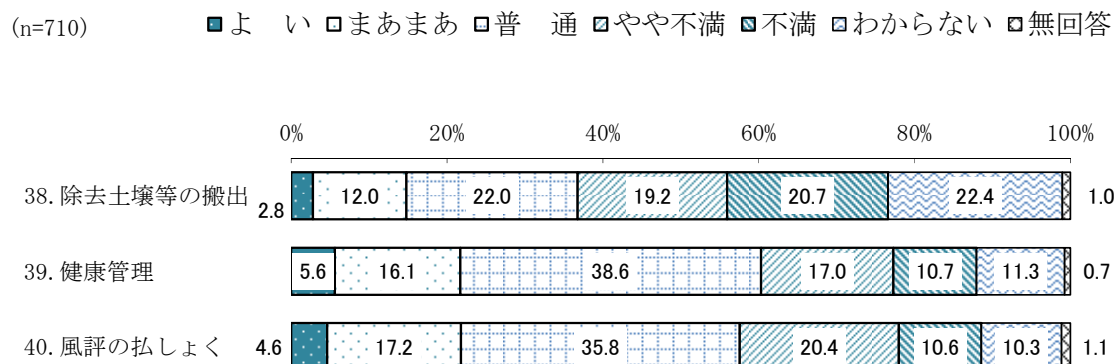
表 2－1 1 暮らしやすいまちの未来の満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男 性	女 性
1位	3R（資源の有効利用） （62.3点）	自然環境 （63.2点）
2位	自然環境 （62.2点）	3R（資源の有効利用） （61.6点）
3位	防災 （60.4点）	防災 （59.9点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	住環境 （72.7点）	自然環境 （69.8点）	エネルギー （60.8点）	自然環境 （64.6点）	自然環境 （61.5点）	3R（資源の有効利用） （62.4点）	3R（資源の有効利用） （67.8点）
2位	自然環境 （72.0点）	防災 （66.5点）	3R（資源の有効利用） （59.3点）	3R（資源の有効利用） （61.9点）	防災 （58.1点）	自然環境 （59.5点）	自然環境 （65.0点）
3位	エネルギー （68.0点）	エネルギー （64.2点）	自然環境 （59.1点）	防災 （58.9点）	防犯・交通安全 ・消費者対策 （57.6点）	防災 （59.2点）	防災 （64.9点）

⑥横断的取組（復興・創生の更なる推進）への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。（○は 38. ～40. それぞれ1つずつ）



—— 横断的取組において「満足」と思う人が最も多いのは

『風評の払しょく』 ——

【全体結果】

『横断的取組』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「まあまあ」の合計）」の割合が最も高いのは『40. 風評の払しょく』（21.8%）です。東日本大震災から約8年経過し風評の払しょくに関しては、郡山製品の安全性、販路の拡大及び観光誘客等に繋がってきていると考えられます。

一方で、「不満（「不満」と「やや不満」の合計）」の割合が最も高いのは『38. 除去土壌等の搬出』（39.9%）となっています。除染により発生した除去土壌等の早期搬出が求められていると考えられます。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図 2-7 参照）

平均得点をみると、『39. 健康管理』が 57.5 点で最も高くなっています。内部被ばく検査や食品の安全確保のための放射能検査、心や体のケアに関する体制などが充実し、健康管理が図られていると考えられます。

一方で、最も低かったのは『38. 除去土壌等の搬出』（48.8 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表 2-12 参照）

図 2－7 横断的取組への満足度＜平均得点＞（全体）

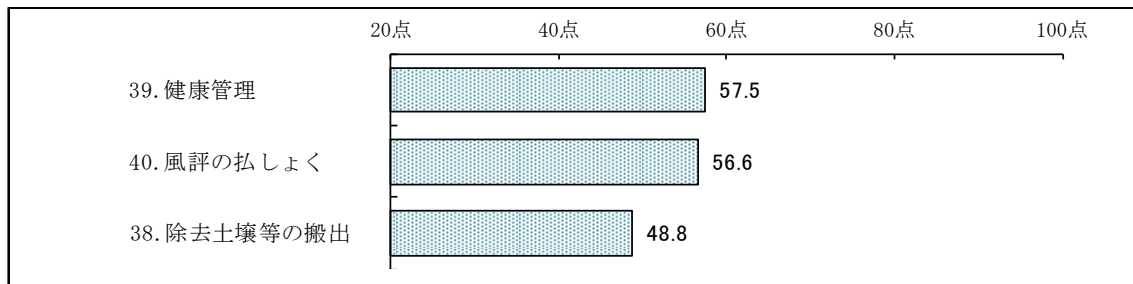


表 2－12 横断的取組への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

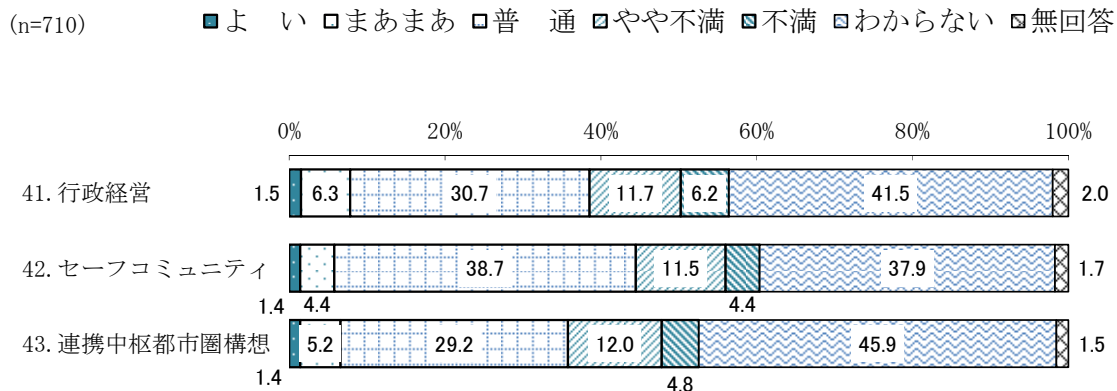
	男 性	女 性
1位	健康管理 (56.7点)	風評の払しょく (58.9点)
2位	風評の払しょく (54.0点)	健康管理 (58.4点)
3位	除去土壌等 の搬出 (50.0点)	除去土壌等 の搬出 (48.2点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	健康管理 (67.3点)	健康管理 (66.3点)	風評の払しょく (55.8点)	健康管理 (61.0点)	風評の払しょく (55.5点)	健康管理 (54.3点)	健康管理 (59.5点)
2位	風評の払しょく (66.0点)	風評の払しょく (60.9点)	健康管理 (55.6点)	風評の払しょく (60.3点)	健康管理 (53.6点)	風評の払しょく (52.4点)	風評の払しょく (57.9点)
3位	除去土壌等 の搬出 (57.5点)	除去土壌等 の搬出 (54.6点)	除去土壌等 の搬出 (47.8点)	除去土壌等 の搬出 (54.5点)	除去土壌等 の搬出 (44.4点)	除去土壌等 の搬出 (48.5点)	除去土壌等 の搬出 (46.1点)

⑦基盤的取組

（行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏）への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。（○は41.～43.それぞれ1つずつ）



—— 基盤的取組において「満足」と思う人が最も多いのは『行政経営』 ——

【全体結果】

『基盤的取組』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「まあまあ」の合計）」の割合が最も高いのは『41. 行政経営』（7.8%）です。

一方で、「不満（「不満」と「やや不満」の合計）」の割合が最も高いのも『41. 行政経営』（17.9%）となっています。

連携中枢都市圏構想については、2018年度中の「こおりやま広域圏」形成に向け、関係14市町村とともに手続きを進めているところであり、「わからない」が45.9%と多くなっていることから、今後、一層の周知に取り組む必要があります。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図2-8参照）

平均得点をみると、『42. セーフコミュニティ』が55.7点で最も高くなっています。一方で、最も低かったのは『41. 行政経営』（54.8点）でした。なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表2-13参照）

図 2－8 基盤的取組への満足度＜平均得点＞（全体）

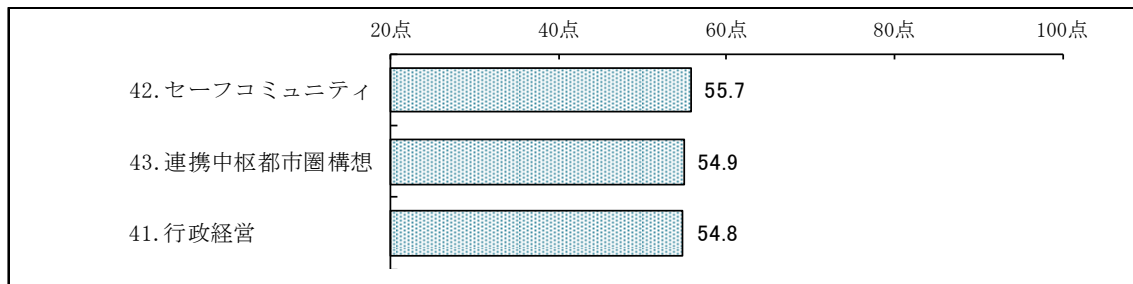


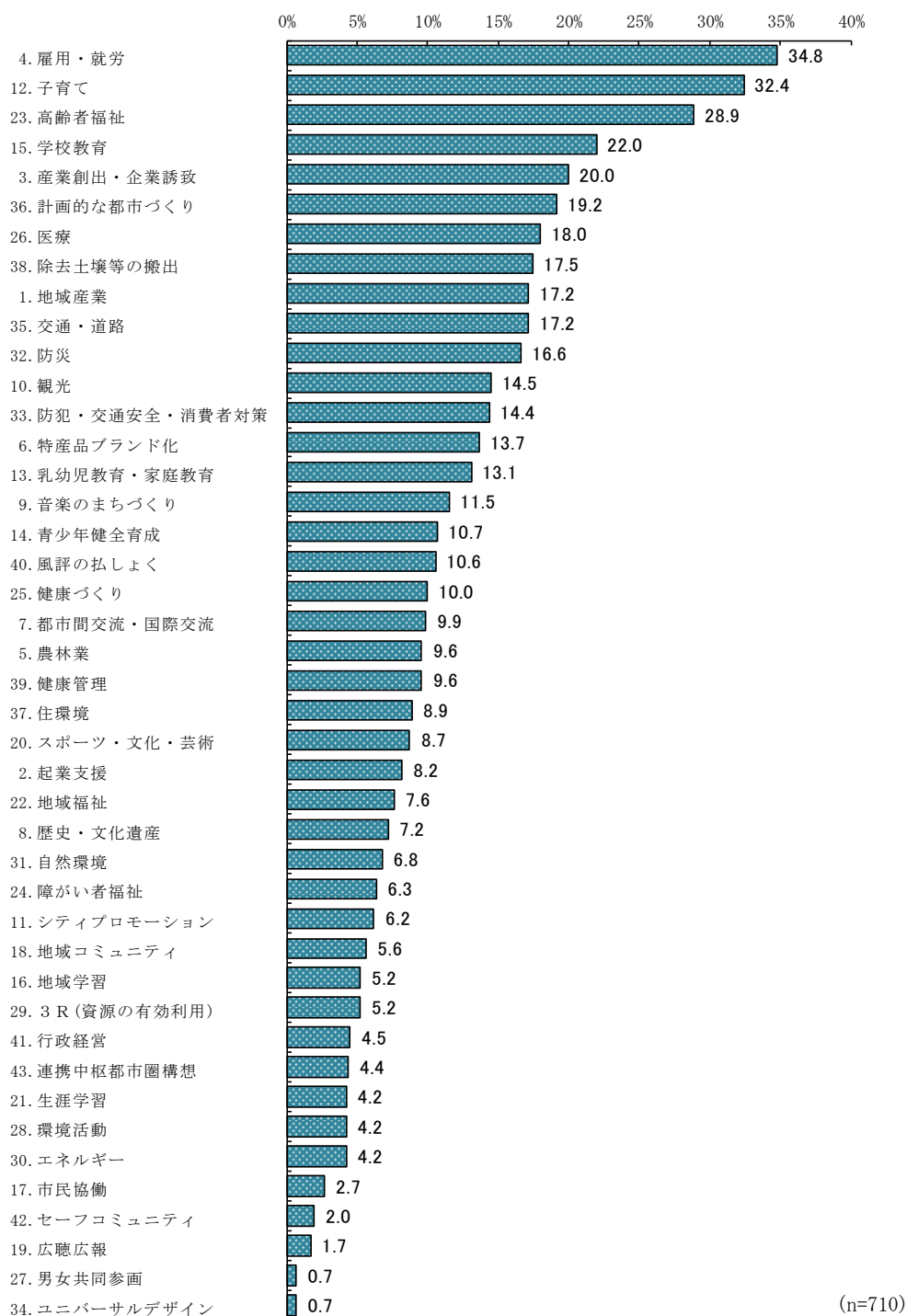
表 2－13 基盤的取組への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男 性	女 性
1位	セーフ コミュニティ (54.9点)	セーフ コミュニティ (56.1点)
2位	連携中枢 都市圏構想 (54.4点)	行政経営 (55.3点)
3位	行政経営 (54.2点)	連携中枢 都市圏構想 (55.0点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	行政経営 (60.0点)	セーフ コミュニティ (57.0点)	連携中枢 都市圏構想 (56.1点)	行政経営 (58.7点)	セーフ コミュニティ (54.6点)	セーフ コミュニティ (55.0点)	連携中枢 都市圏構想 (56.8点)
2位	セーフ コミュニティ (60.0点)	行政経営 (56.1点)	行政経営 (55.7点)	セーフ コミュニティ (56.9点)	連携中枢 都市圏構想 (54.5点)	連携中枢 都市圏構想 (51.7点)	行政経営 (56.6点)
3位	連携中枢 都市圏構想 (60.0点)	連携中枢 都市圏構想 (55.9点)	セーフ コミュニティ (54.7点)	連携中枢 都市圏構想 (55.8点)	行政経営 (52.8点)	行政経営 (50.9点)	セーフ コミュニティ (55.4点)

(5) 分野別属性別重要度結果

問 現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、特に重要と思われるものの番号を5つ選び、その番号に○印をつけてください。（○は5つ）



最も重要視されている施策・事業は「雇用・就労」

【全体結果】

「雇用・就労」（34.8％）の割合が最も高くなっています。以下、「子育て」（32.4％）、「高齢者福祉」（28.9％）、「学校教育」（22.0％）、「産業創出・企業誘致」（20.0％）、「計画的な都市づくり」（19.2％）の順で続いています。

なお、性別、年代別の上位5つを下記に載しました。（表 2-14 参照）

表 2－14 これからの取組について＜性別、年代別の上位5つ＞

	男 性	女 性
1位	子育て (35.3%)	雇用・就労 (36.5%)
2位	雇用・就労 (32.0%)	高齢者福祉 (34.2%)
3位	産業創出・ 企業誘致 (24.5%)	子育て (30.3%)
4位	高齢者福祉 (22.9%)	学校教育 (25.1%)
5位	計画的な 都市づくり (19.0%)	医療 (19.4%)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	学校教育 (54.5%)	子育て (69.6%)	子育て (54.3%)	子育て (35.4%)	雇用・就労 (39.4%)	雇用・就労 (36.5%)	高齢者福祉 (40.3%)
2位	音楽の まちづくり (36.4%)	雇用・就労 (37.0%)	雇用・就労 (41.4%)	雇用・就労 (30.0%)	高齢者福祉 (30.7%)	子育て (32.0%)	産業創出・ 企業誘致 (29.9%)
3位	雇用・就労 (27.3%)	乳幼児教育・ 家庭教育 (28.3%)	医療 (30.0%)	学校教育 (27.7%)	子育て (23.6%)	高齢者福祉 (29.8%)	雇用・就労 (26.9%)
4位	健康づくり (27.3%)	医療 (26.1%)	防災 (22.9%)	高齢者福祉 (27.7%)	学校教育 (23.6%)	学校教育 (21.3%)	除去土壌等 の搬出 (21.6%)
5位	医療 (27.3%)	観光 (23.9%)	交通・道路 (22.9%)	計画的な 都市づくり (23.8%)	計画的な 都市づくり (22.0%)	防犯・交通安全 ・消費者対策 (19.7%)	地域産業 (18.7%)